

ACTION 1 地域の夏祭りをプロデュースしよう！

地域にとってどんな夏祭りが求められているか。学生企画の実施

夏祭りを故郷に帰るきっかけにしてもらい、交流を促す2つの企画を考案・実施しました。

1つ目は大声大会で、大人12人、子ども2人が参加しました。2つ目は盆踊り練習会で、これまで参加していない人への参加を呼びかけました。学生が企画した盆踊りの練習会を通じて当日の会場の一体感を生み出すなど、確かな成果がありました！

参加者へのアンケート調査を実施したところ「今年の夏祭りは活気があった」「今後も夏祭りが開催されることを望む」「温かい歓迎と継続希望」の声をいただき、学生も地域活動の楽しさと運営の難しさを肌で感じることができました。



ACTION 2 みんなでお米を作る「お米クラブ」を作ろう！

学生視点で、「お米」が抱える問題解決策を提案

昨今、社会的にも関心の高い「お米」が抱える問題に対する解決策を学生視点で提案いたしました。

2チーム7人が苗を作る種まきから稲刈りまで関わり、それぞれの「お米クラブ」を提案しました。1つ目は、大学生を対象にした「自然とつながる居場所づくり」で、人手が足りない農作業を手伝うとともに、写真を中心に交流サイトで農家の米をPRするというもの。2つ目は、農業に関心のある高校生・大学生が「ガチの農作業」に携わる。SNSで農家とのマッチングを行い、作業の合間での交流を通じて仲良くなったり、農業の知識を得たりするものです。



プログラムの行程

① 開校式

本プログラムに関わるメンバーの顔合わせの場。学生だけでなく、受け入れ側の地域住民や専門家、ファシリテーターや行政職員など、さまざまな立場の方と、目的を共有するとともに、メンバー間の関係性を構築しました。



② フィールドワーク

2つのテーマ、それぞれがそれぞれの地域、課題に向き合って、フィールドワークを行いました。短い期間のなかで、各チーム共に地域の現状や課題を知ろうとする姿勢や、何か貢献したい、という思いを持ってフィールドワークに取り組む姿が印象的でした。フィールドワークは計4回をベースとして、その他の日もメンバーが集まり、成果発表に向けた準備を進めました。



③ 成果発表会

活動を通して得られたアウトプットや成果を関係者の前で発表しました（10/4）。発表会では、発表だけでなく、学生や学生を受け入れた地域住民、またそれをサポートしたファシリテーターや行政関係者、それぞれの視点からみた感想や気づきを共有しました。地域の方々からも、写真や発信で地域の魅力を可視化すること、継続的な仕組みづくりの重要性について貴重なフィードバックをいただきました。地域に宿る魅力を伝え続けるために、学生と地域が一体となった「ため池アクション」の火を絶やさぬよう、これからも関わっていきます!引き続き、私たちの活動にご注目ください。



来年度に向けて

「ため池アクション」は、地域で活動していくにあたっての「入り口」として位置づけています。そのため、実施期間が終わった後も、継続して地域に訪れ、活動をおこなう、そういった関係性を構築できればという思いを持って企画・実施してきました。

その結果、昨年度に引き続き半数以上の学生が継続的に地域に関わっており、学生団体を立ち上げた事例も見られます。それらの活動を継続的に支援するとともに、来年度も「ため池アクション」を実施し、地域と学生の新たな出会いの場を創出していければと考えています。